

## 兵庫県立総合リハビリテーションセンターにおける症例

		症例1 (外来通院訓練にて実用的となった事例)	症例2 (シリコンライナーを導入した事例)
要旨		<p>事例は、受診当初より筋電義手に高い興味を示し、義手訓練に積極的であった。また、早期より障害を受容されていたこと、断端の状態が良好だったことから外来通院での訓練のみで、筋電義手の習熟に至るまでが非常にスムーズであった。</p> <p>家庭では、家事や育児に協力し、また家族とともにスポーツを楽しむなど、筋電義手の可能性を自ら切り開き、職場復帰を実現した。</p>	<p>事例は、創の状態が経過不良でそれに伴う痛みがあり、同時に断端に対する恐怖心を強く持っていた。そのため、義手を選択するうえでの希望としては、断端が傷つきにくいソケット素材であること、また義手の手先具やソケットの外観がシンプルであることが挙げられた。</p> <p>そこで、これらの条件を満たすものとして筋電義手の外観と、シリコンライナー装着性の適応を検討し、その使用経過に良好な結果が得られた。</p>
一般情報	性別	男性	女性
	年齢	OT処方時35歳	OT処方時37歳
	職業	食品加工業	製綿業
	切断原因	ミンチ機に巻き込まれ受傷(労災)	製綿機に巻き込まれ受傷(労災)
	切断部位	右前腕切断	右前腕切断
	訓練開始までの経過	受傷2週間後に当院受診。週3回、外来での義手操作訓練(能動義手・筋電義手)を開始する。	入院時より断端部に不良肉芽があり、義手の作製は経過観察とした。利き手交換及び装着前訓練を行い、1カ月半後、良好な断端面が得られたため、本格的な義手操作訓練(能動義手・筋電義手)を開始する。
OT評価(初期評価)	印象	義手に対する興味が高く、訓練に意欲的	非常に明るく前向き。反面、切断部の創への恐怖感はある
	ニーズ	日常生活及び仕事で使える義手を希望	義手の訓練を行い会社復帰を希望
	切断肢の状態	①断端長・・・12.5cm(50%・短断端) ②断端状態・・・良好 ③関節可動域・・・肩、肘関節に軽度の制限と痛みあり ④筋力・・・ダニエルの徒手筋力検査にて5レベル	①断端長・・・22.0cm(90%・長断端) ②断端状態・・・当初断端部に不良肉芽あり ③関節可動域・・・肩・肘関節には認めず、幻肢痛、断端痛ともにあり ④筋力・・・ダニエルの徒手筋力検査にて5レベル
	非切断肢の状態	身体機能に特に問題は認めず、非利き手での日常生活にぎこちなさがみられる。	身体機能には特に問題を認めず。非利き手であり、動作全般にぎこちなさがみられる。
ADL	片手動作にて自立	片手動作にて自立	
使用状況		<p>食品加工業に復職し、フォークリフトの運転や商品の管理などの事務作業を行っている。フォークリフトは、筋電義手でリフトの操作レバーをコントロール、左手で舵ハンドルを操作。工場内で食材などを運搬している。また、商品の入った運搬箱の仕分けを行う。このように、重量のある物を運んだり、身体の遠位での両手作業・動作が不可欠であり、体幹及び非切断肢の動きに干渉しない筋電義手の利点を生かし、仕事の効率化につながっている。利き手交換訓練にて左手での書字訓練も行うが、本来右利きで、肘・肩関節が字を書くときの動きを覚えているとのこと。筋電義手のため手関節の動きは制限されているものの、右手での書字がスピードも速く整っており、実用的であった。</p>	<p>職場復帰を行い、また主婦としても筋電義手を活用している。仕事柄、布団など大きな物を取り扱うため、両手をいっぱいに広げるような粗大的な動作が求められる。ソケットの形状が差込式なため、肘関節の運動に違和感なく、また前腕回内外を生かした動作がスムーズに行えている。</p> <p>また、完成した部品を梱包するためにビニールなど破れやすい素材の物を使用する。そのため、破かないよう把持できる筋電義手は有効である。</p>